

## エリスロポエチン（造血ホルモン）の投与時期について（2007/2/20）

#.5

Name:	ゆずちゃん	Age:	推定 10歳	■投与開始時の BUN/CRE	44.1 / 5.3
■薬剤名	エスポー		■投与時猫体重	1 クール目：不明 2 クール目：2.6kg 3 クール目：3.6kg 4 クール目：3.9kg	

■開始年月日～終了年月日（投与回数／量）	PCV／HCT の変化
2004.06.13～2004.07.22（週 2 回／	） 11.0%→27.0%
2004.10.28～2004.12.14（週 2 回／	） 15.0%→25.0%
2005.02.01～2005.03.03（週 2 回／	） 14.0%→21.0%
2005.05.16～2005.10.06（週 2 回／	） 13.0%→19.0%
<b>■抗体について：</b>	
4 クール目、1 ヶ月ほどで PCV13%→19%といったん上がったものの、その後 13%→7%→10%と貧血が進んでしまったので抗体が出来たようにも思うが、これは BUN と CRE の上昇に合わせて輸液を徐々に増量したせいとも思われ、もう腎臓そのものが限界にきていたからのようにも思う。	
<b>■他の貧血対策：</b>	
1 クール目と 2 クール目は静脈点滴により PCV がかなり下がってしまい、ゆずもぐったりしてしまったため救急処置で輸血を併用した。	
3 クール目と 4 クール目は数値は低いものの、本猫に元気食欲があったため輸血の処置はとらず。あと一般的な方法ではないが、2 クール目からはステロイド（プレドニゾロン錠）を飲んでいた。	
4 クール目からは鉄分補給にと思い鉄瓶で沸かした湯を冷ましたものを飲み水として与えたが効果は不明。	

### ■飼い主さんの感想

エリスロポエチンは効果が出るのに時間はかかるものの、ゆずにとっては体調維持にとっても有効だったと思う。特に 2 クール目以降はかなり元気になってドライフードを自ら進んで食べるようになり、体重も増えた。亡くなる 1 週間前まで食欲廃絶もぐったりすることもフラフラすることもなかった。

ゆずは輸血も 2 回経験しているが、輸血はかなり体に負担がかかるようで、輸血後はぐったり気持ち悪そうにしている。こっちは心配でぐったりしてしまう程だったが、エリスロポエチンは輸血のような体への負担がなく体調維持ができるので、貧血治療には輸血よりもエリスロポエチンをまず試すべきと思う。

ただ、1 クール目と 2 クール目のゆずのように静脈点滴で急に PCV が下がって体調を崩した場合には即効性のある輸血は救急処置として有効だと思う。

4 クール目、エリスロポエチンはもう効いてないかとも思いながら投与を止めなかったのは、止めて体調を崩してしまうことが怖かったから。

結局最初の投与から 1 年以上効果があったのだから貧血対策としては現時点ではエリスロポエチンが最も有効だと思う。

《じいや補足》

ゆずちゃんは抗体を防ぐためにステロイドを併用していました。

抗体ができなければ何度でも使える EPO であり、抗体はネコさんの免疫が作るものなので、免疫力自体を抑えてしまおうという考え方です。

しかしこれは現状ではなかなか行われない特別な方法といえるかもしれません。

飼い主さんがこの方法に辿り着いたのは、エリスは将来的にゆずちゃんは何度も使うことになるだろうという冷静な判断があったから。また羨ましくなるような信頼関係を病院側と築くことができたから、病院側がゆずちゃんの症状をよくよく理解し、ゆずちゃんのための治療法を飼い主さんと一緒に真剣に考えてくれた結果といえると思います。